



特定非営利活動法人 富山県防災士会 会報

(NPO 法人日本防災士会・富山県支部)

第 38 号

令和 6 年 3 月 1 日
発行 富山県防災士会
連絡先 090-3760-3702
(事務局長：上田)

令和 6 年 能登半島地震の復興支援に向けて ＝吉澤理事長から会員の皆様へ＝

この度の「令和 6 年能登半島地震」でお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災され、今なお困窮した生活を送っていらっしゃる多くの方々に心からお見舞い申し上げます。



(吉澤理事長)

年明け早々、元日の 16:10 に発生した地震は、富山県の観測史上初となる震度 5 強を記録し、県西部を中心に家屋の倒壊など大きな被害が発生しています。

とりわけ、二次被害としての液状化による被害は顕著です。家屋が傾いたり、沈下したり、道路の地割れ・陥没、電柱の埋没や倒壊による停電など、これまで経験したことのない事象が次々と発生しました。

このような中で富山県防災士会としては、被害が市街地を中心とする平地に広範囲におよんでいる氷見市への支援活動を 1 月 6 日から開始しました。

具体的には、①指定避難所関係の支援、②災害ゴミ仮置場での受入れ支援です。また、2 月には石川県支部と連携し、能登町(珠洲市 1 日間)のボランティア活動に参加しました。

富山県下の防災士の皆さん、復興支援活動はまだまだ続きます。「何かできることはないかなあ」と密かに思っているあなた、富山県防災士会は、今後とも皆さんへ支援活動の情報発信を続けていきます。

ひとり一人の力は小さくても、熱い思いを持った防災士が集まれば、復興に向けた大きな力となり、貢献できると信じています。

一人でも多くの防災士の参加を待っています。また、その活動体験をそれぞれの地域へ持ち帰り、防災体制の強化に取り組んでいただければ幸いです。



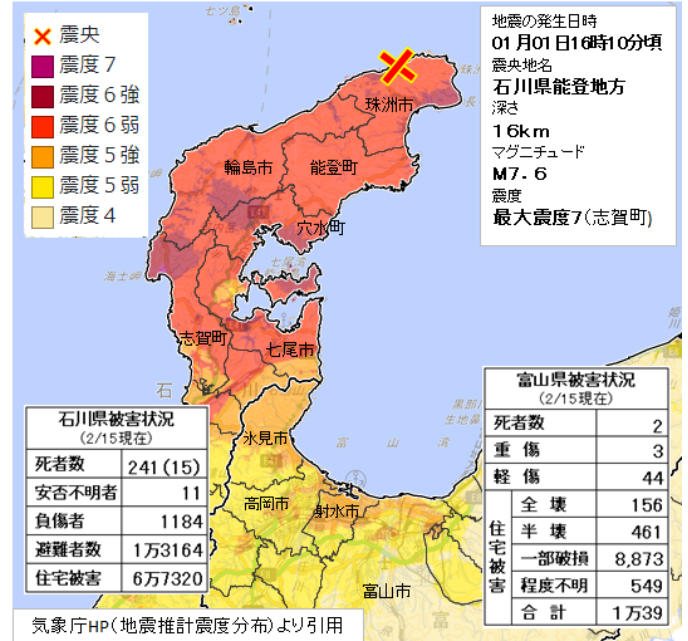
(災害ゴミの仮置場で支援)

【支援活動】

- ① 氷見市閉鎖避難所の授業開始に向けた清掃ボランティア
および継続避難所の清掃ボランティア
・1/6(土) 宮田小学校(避難所閉鎖) 参加:16名
・1/7(日) 比美乃江小学校(避難所閉鎖) およびふれあい
スポーツセンター(継続避難所) 参加:16名
- ② 氷見市災害ごみ搬出支援ボランティア
・1/11(木)～ 1/21(日) 11日間
場所:氷見市ふれあいの森第2駐車場
参加:37名(延べ97名)
- ③ 能登町被災者支援ボランティア
・2/21(水)～ 2/27(火) 7日間
場所:能登町及び珠洲市ボランティアセンター
参加:22名



富山県内にも大きな爪あと



【メカニズム】

断層の上側の地盤が下側に乗り上げる「逆断層型」と言われ、半島北部を北東から南西に方向に縦断する 150km 程度の広範囲なエリアで活発な地殻変動が続いている。(政府の地震調査委員会が分析)

京都大の後藤浩之教授の分析では、破壊が震源から北東と南西に伝わり、少なくとも 2 回の大きな破壊が起こっていた。(2 月 1 日 北日本新聞記事より引用)

【津波】

今回の地震ではハザードマップの予測を超える津波が襲来したが、富山県防災士会の顧問で富山大名誉教授の竹内章氏によると、能登半島で起きた津波と富山湾で起きた津波の 2 つが押し寄せたと分析。湾内で地震発生から 1 分後に引き波が観測されており、地震の揺れで富山湾内の斜面が崩れ、津波が起きた可能性を指摘する。

県内の内陸でも大きな地震が起これば、どこが震源でも富山湾で津波が起こり得る。沿岸部に居住する方々は富山の内陸地震でも津波に備えてほしいとのこと。

【液状化】

液状化現象は、地層の中で互にくっついて水を保持している砂の粒子が、強い揺れなどでバラバラになることで起きる。粒子が水と分離することで地盤が沈下し、水が地表に噴き出す。今回の地震では、氷見や高岡、射水などの西部を中心に沿岸部だけでなく内陸部でも被害が発生している。富山大名誉教授の竹内章氏は、縄文時代は海だった場所で地盤が粒の細かい地層で形成されているため、地盤沈下が起きやすい。震源から同距離の氷見(震度 5 強)と魚津(震度 4)で揺れの違いが生じているのは、地盤の強度が異なることが大きいと指摘する。

列島縦断「防災・減災公開講座」in 富山 「近年の温暖化に伴う気象災害を学ぶ」

11月14日13時～16時、サンシップとやま大ホールにおいて、日本防災士機構主催による防災・減災公開講座が開催されました。会場には、協力組織である北陸地方郵便局長会関係110名、富山県防災士会関係78名、一般13名の200名余りが集まりました。まず初めに長岡技術科学大学教授の上村靖司氏から「近年の温暖化に伴う気象災害を学ぶ」と題して、講演を拝聴しました。特に印象深かったのは、「雪かき道場」(座学、安全講座、交流、作業の2日間コース)のお話や「防災ワクチン」というワークショップで、あえて情報を与えず、想像して議論させ、防災を自分ごととして捉えさせる話でした。機会があれば、もう一度聴講したいお話でした。続いて以下の4氏による事例発表がありました。

- ① 富山県防災士会活動報告
富山県防災士会 吉澤実 理事長
- ② みんなでつくるう地区防災計画
富山県防災士会 佐伯邦夫 顧問
- ③ ダイバーシティで進める防災
富山県防災士会 村上綾子 理事
- ④ 被災地支援活動
高岡横田郵便局 山田正樹 局長(防災士)



(講演する上村教授)

最後は、登壇者5人によるセッションが行われ、大盛況のうちに幕を閉じました。



(吉澤理事長・上村教授)



(佐伯顧問・村上理事・山田局長)

令和5年度 女性防災士による勉強会の開催

10月7日、砺波市「せんだんのhill」で、第1回女性防災士による勉強会を開催しました。いつもの生活から防災を捉え、”できることから、すぐ始める”女性の特技を發揮して、ハッピーママ編集GMの内山真理子氏から「小さいお子さんを持つママの視線の備え」について、管理栄養士の松原美由紀理事から「平時から役立つ調理法」「災害時の健康と食の話」を聴講しました。パッククッキングのデモには吉澤理事長にも参加いただき、楽しく和やかな勉強会となりました。



(パッククッキングを体験する吉澤理事長)

12月2日、サンシップとやまで、第2回女性防災士による勉強会を開催しました。今回は小瀬理事を講師にお迎えし、普段のネットワークを活用した災害時の連絡体制についてLINE WORKSのツールを学びました。また、昨年度まで副理事長をされた大屋ますみ氏には、研修講師を引受けた際の心構えや資料作りについて、様々なノウハウを交えて講義いただきました。2回の勉強会を通して、女性防災士が気軽に学び合い、仲間を増やして励まし合える「つながる場」の提供がもっと必要だと再確認しました。

富山県防災士会の組織の在り方

組織の在り方については第36号紙面でも紹介し、理事会の中で検討を進めてきましたが、改めて発端となった日本防災士会の支部活動手引き(以下「手引き」)の一節を確認し、富山県防災士会(以下「当会」)への影響について簡単におさらいします。

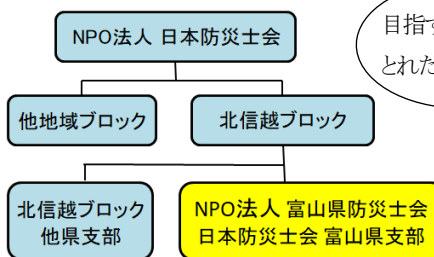
手引きでは、支部としての構成員の条件として①支部長等役員(理事等)は日本防災士会の会員であること。②過半数以上の日本防災士会正会員で構成されること。といった制約条件を記載しています。

もっとわかり易い表現では、当会員360名の過半数以上が日本防災士会へ入会していること。当会役員はすべて日本防災士会の会員であること。これを守れば日本防災士会の支部と認めますとの解釈になります。

そこで当会では、今後の防災に関する社会的ニーズの増加による対外的な責任の重要性を鑑み、現在「日本防災士会富山県支部」と「NPO法人富山県防災士会」のいわば同一目的を掲げる2つの組織の側面を保持している状況を解消するために、日本防災士会へ上記①と②についての削除を求めることといたしました。いわゆるNPO法人富山県防災士会を支部として位置付けるよう求めるということです。

日本防災士会 支部長会議で発言

3月2日開催の日本防災士会支部長会議において、吉澤理事長から当会の考え方を示し、これを受ける日本防災士会では、すでに設置されている「総務財務委員会」において、本手引きの規程見直しについて検討することとされています。今後とも上記委員会の検討動向に注視するとともに、同じNPO法人として日本防災士会と当会が良好な関係を堅持しつつ、防災に関する様々な活動に取り組める環境となるよう期待します。



目指すは調和のとれた組織だね!



令和5年度 防災講演会

地区で活動する防災士に期待される役割

12月9日に富山県危機管理センターにて、防災講演会を開催しました。例年、県防災士会の会員向け研修会として実施しており、今回は新潟大学危機管理センター教授の田村圭子氏をお招きして、これまで経験した災害の避難所運営にスポット当てながら、就寝者数と食料供給数の比較、トイレの確保と管理ガイドライン、避難所のペット対応など、地区防災計画にも反映すべき様々な事例を紹介いただきました。

令和6年能登半島地震の発生により、一部編集を変更しました。富山県防災士会 広報部では、皆様の活動情報をお待ちしています。連絡先：090-3760-3702 (上田)